



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/7 (月)	+ 400	+ 5,900	+ 6,300	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 + 2,100		日：毎月勤労統計 (5月)
7/8 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日：経常収支 (5月)
7/9 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (5年)	共通担保 ▲ 8,000		米：FOMC議事要旨 (6月17日・18日開催分) ：米政権が貿易相手国・地域に課す上乗せ関税の一時停止期限
7/10 (木)	トン	+ 2,000	+ 2,000	国庫短期証券発行償還 (6M)			日：日銀支店長会議、地域経済報告
7/11 (金)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000	源泉税揚げ 国債発行 (20年)			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比7,700億円減少の529兆1,500億円から始まった。その後、法人税、消費税、保険料揚げや国債発行等の要因により減少し、4日は521兆9,400億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.477%～0.550%のレンジ、1M～3M物0.560%～0.650%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、7日に毎月勤労統計 (5月) の公表、10日に日銀支店長会議、地域経済報告が行われる。海外では9日にFOMC議事要旨 (6月17日・18日開催分) の公表、米政権が貿易相手国・地域に課す上乗せ関税の一時停止措置期限などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.65
2M	0.54 ～ 0.70
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

<レボ>

足許GC取引は週を通して+0.49%を中心とした出合いとなった。輪番オベのあった2日も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～473回債、5年155～178回債、10年355～370、378回債、20年110～130、156回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.60

<CP>

今週の入札発行総額は約9,035億円で、週間償還額の4,745億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆3,222億円から、7月3日時点で24兆6,979億円に減少した。発行市場は、卸売業、石油、通信業、ゴム、電機業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%近辺での出合いが見られた。

来週の償還額は1兆3,500億円となっている。発行市場は、6月末越えの資金を必要としていた発行体が償還を迎えることから、落ちついたマーケットが見込まれる。

発行レートについては、今週に引き続き、1か月物では0.50%台前半での出合い、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%近辺と、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

4日の3M (1316回債) の入札は、最高落札利回り0.4356% (前回債0.4396%)、平均落札利回り0.4264% (前回債0.4215%) となった。

来週の入札は9日に6M、11日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。